

札幌軟石で できた “れきけん”

北海道の開拓期に大きく貢献した札幌軟石。歴史の重みと味わいを感じさせてくれるこの素材に注目して、歴史的建造物を見てみましょう。



札幌軟石って何？

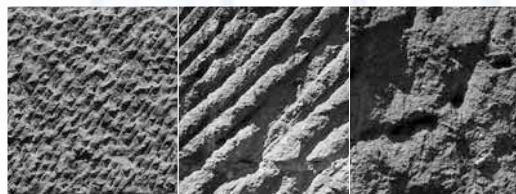
4万年ほど前、支笏湖を形成した噴火が起きた際の火砕流が固まったもの。加工しやすく断熱効果も高いことから、明治から昭和にかけて、多くの建物に使われました。

当時の採石場は、現在「石山緑地（南区石山78）」として市民の憩いの場になっています▶



近くで見よう！さまざまな表情を見せる軟石

建物によって表面の模様はいろいろ。のみの跡を残す「のみ切り仕上げ」や、岩肌のごつごつした風合いを残す「こぶだし仕上げ」などがあります。



日本基督教団札幌教会礼拝堂

札幌軟石の壁面と青いとんがり屋根が特徴的な教会。円いステンドグラスやとがった形の窓など、随所に中世ヨーロッパの建築様式を見ることができます。



明治37(1904)年建築

見学
外観のみ
所在地
中央区北1東1



旧沼田家倉庫(豆蔵珈房宮田屋東苗穂店)

地域の農家が収穫したタマネギを預けたほど、当時この付近で最も大きな倉庫。現在は札幌軟石の風合いを生かした喫茶店として、新たな役割を担っています。



昭和37(1962)年建築

見学
店舗利用時のみ
内覧可
所在地
東区東苗穂5の2



旧石山郵便局(ぽすとかん)

地元の軟石で造られた、地域のシンボリックな建物。郵便局の役割を終えた現在は、会社の事務所や多目的スペースとして活用されています。

見学 内覧可(事前に㈱大典☎090-8374-6787に連絡が必要)
所在地 南区石山2の3



昭和15(1940)年建築



正面の軒下にある〒マークが、郵便局として活躍した面影を伝えています。今では、地域の会合など、まちづくり活動の場に。小学生が授業で見学に来てくれることもあるんですよ。時を超えて地域のつながりの拠点になっていることがうれしいですね。



旧石山郵便局の所有者
いわもと のりかず
岩本 憲和さん